

高校3年生や中学3年生にとって最後の舞台となるはずであった大会がなくなってしまった。現在、各競技団体を中心に代替大会の開催を模索しているところである。

自分が指導者の立場だったら生徒たちにどんな話をしただろうか。そう考えることもある。全国的にも有名な指導者が、生徒たちにどのような言葉をかけたのか。メディアに出るものは野球が多い。高知県に明德義塾高校がある。その野球部は甲子園の常連校の一つである。このチームを率いるのが馬淵史郎監督である。以下に、馬淵監督が約100人の部員を前に話した内容の一部を紹介する。

お前らが目標にしとった大会がない。非常に残念でたまらん。自分の力を発揮できる大会がなくなったというのは、本当につらい。

ただ、いつも言っているように、高校野球の目的は「人間づくり」やから。勝つか負けるか分からん。優勝せん限り、どっかには負ける。四千校近いチームの中で1チームだけで、あとのチームは、予選か甲子園に行ってどっかで負けて終わるわけだ。

目標としとったものがなくなるというのは、本当にね。何とも言えん。一言では残念としか言いようがないけど、それだけでは言葉が足らんとするやけど。目的は「将来につながるための高校野球」やから。それだけは忘れんなよ。勝った負けた、甲子園に出場できない、レギュラーになつたなれないと、いろんなことがあるけど、要は、世の中に出て通用するようなことをグラウンドで学ぶのが高校野球なんや。

大会がなくなったからというんで、自暴自棄になり、目標を失ってふにゃふにゃの人間になつたりしたらあかん。まだまだ将来つながるんやから。新しい目標を立てて野球続ける者もおるだろうし、高校3年間で終わって進学して違った道に行く者もおれば、就職する者もおると思う。けど、必ず、今の親元を離れて寮生活をして打ち込んだものが、絶対どこかで生きてくるんやから。

よその学校に比べたらまだ恵まれていると言ったらおかしいけど、四国大会でチャンピオンになり、神宮大会という全国大会の経験ができたというのは唯一の救いや。胸張っていいと思うけど、新しい目標を設定して、そこに向かってやっていかなあかん。だから、今の時期で「甲子園がなくなった。はい新チームに切り替えます」というようなことはしない。まだ高知県で大会に代わるようなものも考えてくれているみたいなので、とにかくやれることを最後までやっていく。

ええか、これでOB気分になって「終わった終わった」じゃないんだぞ。3年生も夏休みまでは、自分の目標に向かってしっかりやって、グラウンドには普通通りの時間に出て、普段通りの練習をやる。忘れんなよ。世の中に出ていろんな苦しいことがあったときに、耐えていける精神力をつけるというのが高校野球なんや。こういう苦しいときほど、人間は試されるんで。甲子園だけがすべてじゃないんやから。人生、甲子園に行けない人間の方が多いんやから。全員が気持ち切り替えてやっていかないと。それでも最後まで同じ仲間とグラウンドでやれたというのが財産やから。10年、20年経って、「あのとき、自分らの代は地方大会がなかった。試す場所がなかった。」ということが、きっと役に立つときがあるから。

これで気持ちを切り替えるのは難しいかもしれないが、次のステップにみんなが進んでいくようにしましょう。今の状況は命に関わることやから。最近若い者でも重症になつたり命がなくなつたりする者もおるんで。他の人にうつしたりする心配もある。地方大会がなくなったというのも、移動と審判員の安全のため。それと、今は医療態勢が崩壊しかかっているやろ。球場に医者を派遣するだけの余裕がないと言われている。高知県だけじゃない、甲子園もそうや。みんなを守ろうということよ、要するに。コロナから守ろうということで、大会をなくした方がいいんじゃないかということ。そういうとらえ方をせないかんじゃないかな。

今、ぱっといい言葉が出てこないけど、自分も高校野球やった人間やから。でも、俺らは負けて、それで高校野球に区切りをつけたんや。それがない分、つらいわな。気持ちはよう分かる。親御さんもそういう気持ちだったと思う。そういう関係者のことも考えたら非常につらい。気持ち切り替えてくれとしかいいようがない。

頑張つてやれよ、こっからだぞ。こっからが出发点だ。何も終着駅じゃないよ。こっから出发点だ。気持ち切り替えてやっていけよ、ええか。

馬淵監督が話したことは、多くの指導者の方々が生徒たちに伝えたいことではなかろうか。終わりではない。出発のときである。